

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部心理コミュニケーション学科	木村 雅史	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

◆前期

社会学概論

基礎ゼミナール 1d

コンピュータリテラシー 1def

ネット社会のコミュニケーション

社会調査法

卒論指導演習 1b

個人と社会

◆後期

社会的自我論

専門演習

卒論指導演習 2b

卒業論文

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

・授業を通して、自分の生活や思い悩んでいることを常識的な思考とは違った観点からとらえ、相対化できるような視点を提供していきたい。

・まずは授業内容に関心をもってもらわないと始まらないので、受講生にとって身近なテーマや話題を取り上げ、それを学術的なテーマや概念に関連づけられるように努めている。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

教員の講義が中心となる講義系の授業と、受講生の発表や議論が中心となる演習系の授業で授業方法が異なる。

◆講義系の授業

・授業に関連した話題や事例を紹介するために、毎回授業時に15分程度の映像を視聴してもらう。

・毎回の授業後、WebClassに出題する課題は、授業内容と自分の生活や悩み事に関連づけるような課題にすることで、授業内容を「自分ごと化」してもらうよう努めている。

・課題に関する回答のうち、優れた回答や興味深い回答、重要な質問やコメントを次回の授業資料に記載し、授業冒頭で解説することで、ふりかえりと共有を行う。

◆演習系の授業

- ・教員が設定した課題や指定論文の読解に各自が取り組み、授業前に WebClass に回答を提出してもらうことで、しっかりと事前学習した上で授業時の発表や議論に臨んでもらう。指定論文は、なるべく具体的で身近な事例を扱った論文を選定するようにしており、受講生の関心の喚起に努めている。
- ・事前課題に関する回答のうち、優れた回答や興味深い回答を授業資料に記載し、その回答を見ながら議論してもらうことで、活発な議論を促している。
- ・後半の授業では、前半の授業の課題や指定論文を参考にしながら、各自が研究テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、自分の問いと考察を発表し、期末レポートにまとめてもらうことで、4 年次の卒業論文作成の準備学習を行う。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

◆講義系の授業

- ・授業時に視聴してもらった映像に関心を持ち、映像に関連して調べたことや自分の気づきを WebClass の回答に書く受講生もあり、映像視聴を発展学習につなげることができている。
- ・受講生の回答の一部を優れた回答として授業資料に掲載することで、「授業資料に掲載されるような回答を作成したい」という動機が高まり、授業回を重ねるごとに吟味した回答や質問、コメントが多くなり、ふりかえり学習を促進することができている。

◆演習系の授業

- ・授業資料に掲載された一部の受講生の回答を見ながらグループで議論し、議論の結果を発表してもらうことで、多様な考え方のパターンを学習する機会をつくることができている。
- ・授業後半に行う研究テーマ設定や期末レポート作成で、授業前半で扱ったテーマや指定論文をうまく活用する受講生もあり、授業内容を各自の研究課題に接続することができている。

【目標】(今後どうするか)

- ・講義系の授業では、どうしても教員による説明の時間が長くなってしまい、受講生の集中力や主体的な学習意欲の低下が見られることがある。講義の途中で短い議論の時間をはさむ、オンデマンド授業の回をつくるなど、学習の主体性を高める工夫をしていきたい。
- ・演習系の授業では、授業前に課題や指定論文の読解をしていることを前提に、授業時には発表や議論など発展学習を行うが、課題内容や指定論文の概要が理解できているのかあやしい場合がある。難しい課題は 2 回の授業に分ける、基本概念の解説をしっかりと行うといった工夫をしていきたい。